

～まちづくり夢アイデア～

～テーマ～

～広域連携による地域おこし協力隊のまちづくり～

1, 地域おこし協力隊で地方再生策

2009年に始まった国の地域おこし協力隊ですが、2017年現在、全国で4000名を超える地方の活性化策と言われていますが、実態は人口減少に歯止めが治まらないのが今の地方ではないのでしょうか？

* 地域おこし協力隊の支援策

- ① 3年程度の報酬制度をやめて生涯その地域で暮らせる目的を応援する
- ② 北海道も市町村ごとに協力隊を募集していますが、これを近隣市町村と連携しながらのまちづくりを考えてみてはどうでしょう！（広域地域おこし協力隊の創設）
- ③ 単に自治体の移住・定住促進の考え方だけでは未来を見据えられないと思います。
- ④ 地方の時代と誇りに思えるような、働きたいという若者、女性を引きつけるような魅力のある地域づくりを目指す事ではないか。
- ⑤ その地域に住んでいる住民からの声を汲みあげて、例えば、人口減少はこういう問題があるので地域住民がこういう事をしますという具体策の議論をすることです。

* 人口減少対策

- ① 今の生活保護制度では、住宅扶助と、生活困窮者自立支援の住居確保給付金がありますけど、人口増対策として広く低所得世帯に拡大をすることです。
- ② 女性と子供の貧困が最大の課題
女性を大事にしなければ、少子化対策は解決しません。出産と子育ての環境をまずは整える事です。妊婦検診は無料にする等。
- ③ 対外受精児の誕生が過去最多に。
不妊治療の対外受精によって2019年に誕生した子供の数は、過去最多の約6万6000人程だそうです。1983年に国内初の対外受精児が生まれて以降、この技術を用いて誕生した子供は70万人を突破したようです。只、今のところ対外受精は公的医療保険の対象外ですが、これらも公的医療保険の対象にする議論をされていますが、直ぐにでも適用対象にするべきではないでしょうか？

～以上～